

令和4年度出水期の概要

令和5年6月9日

2022年（令和4年）出水期の本土に上陸した台風について

- 令和4年の台風の年間発生数及び接近数（気象官署等から300km以内に接近）は平年を若干下回り、上陸した台風の数も平年の年間平均と同程度であった。
- 9月14日に発生した台風第14号は上陸時（鹿児島県）の中心気圧が観測史上4番目に低い台風であり、九州地方を東部を中心に豪雨・暴風をもたらした

平年値

1991年から
2020年までの
30年平均

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
発生数（注1）	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
接近数（注2）				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
上陸数（注3）					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0

2022年

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
発生数（注1）				2		2	2	5	7	5	1	1	25
接近数（注2）				1			3	3	6				11
上陸数（注3）							1	1	1				3

赤字：平年値（1991年～2020年の30年平均）と同値・上回るもの

（注1）発生：協定世界時（UTC）を基準

（注2）接近：台風が国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

（注3）上陸：台風が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合

ただし、小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」

出典：気象庁 台風の統計資料 <https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/statistics/index.html>

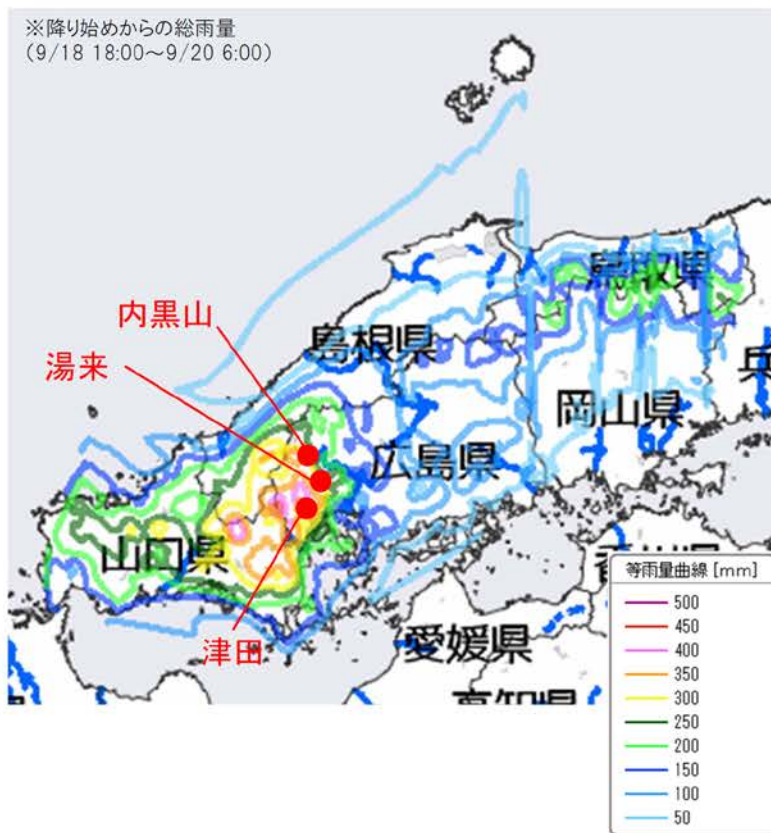
「台風の平年値」、「台風の発生数」、「台風の接近数」、「台風の上陸数」

中国地方に影響を及ぼした豪雨

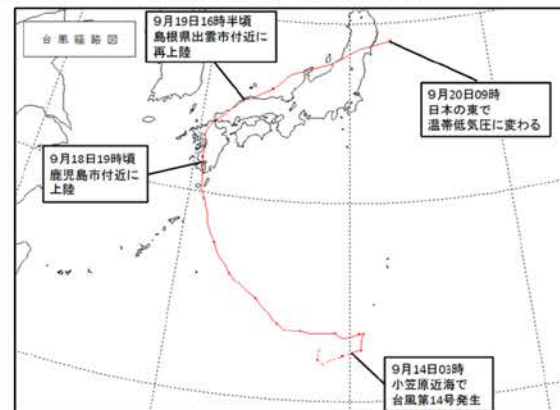
令和4年9月19日出水（台風第14号）（気象概要）

- 令和4年9月14日に発生した台風第14号の接近により、9月18日から九州や中国、四国地方をはじめとした西日本から東日本に至る広い範囲で激しい暴風雨が生じた
- 台風を取り巻く発達した雨雲により、広島県内ではところにより非常に激しい雨が降った。降り始めの18日13時から20日11時までの降雨量は、安芸太田町内黒山で388.0ミリ、廿日市津田で369.5ミリ、広島県佐伯湯来で287.5ミリなど、平年の9月1か月分を超えるところもあり、記録的な大雨となった。

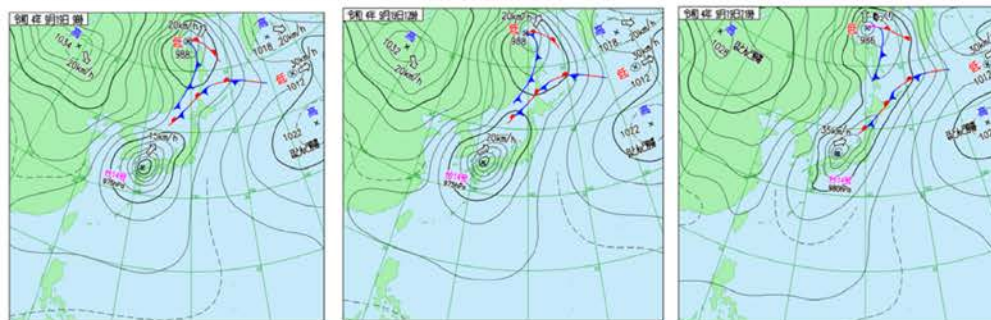
■ 等雨量線図 【国土交通省作成】



■ 台風経路 【広島地方気象台 気象速報より】



■ 実況天気図 【気象庁HPより】



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

中国地方に影響を及ぼした豪雨

令和4年9月19日出水（台風第14号）（管内の国管理ダムによる洪水貯留）

- 台風第14号では、洪水貯留を行った中国地方整備局管内の国管理11ダムで、約47,700千万m³の洪水を貯留し、下流河川の流量を低減。
- 国土交通省では、台風第14号で過去最多となる129ダムをはじめ、全国のべ162ダムで事前放流を実施
- 芦田川水系においても、八田原ダムにて洪水調節操作を実施。

令和4年度出水期は全国のべ162ダムで事前放流を実施！
～洪水に備え、既存ダムを活用し容量を確保～

令和4年度の出水期は、**台風第14号で過去最多となる129ダム**をはじめ、全国のべ162ダムでの事前放流の実施により、約5.5億m³の容量を確保し台風等の洪水に備えました。

- 令和2年度以降、全国のダムで事前放流の実施体制を整えて洪水に備えています。
- 今般、令和4年度の出水期における事前放流の実施状況をまとめましたので、お知らせします。

<令和4年度出水期における事前放流の実施状況（概要）>

	令和4年度	（参考）令和3年度
治水等多目的ダム	76ダム	66ダム
利水ダム	86ダム	56ダム
合計	162ダム	122ダム

出典：国土交通省HP

■ 洪水貯留状況（国管理ダム）

★特別防災操作＜1ダム＞

弥栄ダム（小瀬川）

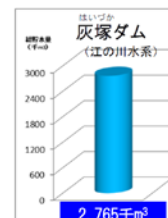
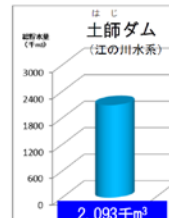
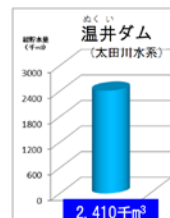
★洪水調節操作＜6ダム＞

殿ダム（千代川）、宮田ダム（吉井川）、**八田原ダム（芦田川）**、土師ダム（江の川）、弥栄ダム（小瀬川）、島地川ダム（佐波川）



※1「特別防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、今後の予測雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作。

※2「事前放流」とは、大雨となることが予想される場合に、大雨の時により多くの水をダムに貯められるよう、河川の水量が増える前に利水容量から放流して一時的にダムの貯水位を下げしておくこと。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

